

丈夫が いいね

1522

火事になると消防車が出動し、あたりは騒然とする。同様に、がん細胞ができる免疫に関わる遺伝物質も騒ぎ出す。この遺伝物質を解析すれば、がんの有無が分かる



ものを見つけてるのが画像診断なら、出動した消防車の車種や放水量から、火事の有無や種類を見分けるのがマイクロアレイ血液検査です

マイクロアレイ血液検査は昨年8月に実用化され、現在、全国で約40カ所、県内では公立松任石川中央病院（白山市）など10カ所の医療機関で行われている。

落ちて、異物を攻撃する抗体を作り出す司令塔になる。

マイクロアレイ血液検査を運用する金大発のバイオベンチャー企業「キュービクス」（金

沢市）の丹野博社長によると、血液中には常に約3万2千種のRN

この結果、血液中のRNAを調べて、特定のパターンが見られれば、体内にがん細胞があることが分かるのである。

検査に使うDNAチップには、約3千種類のRNAが載せられている。そこに患者の血

液から採りだしたRNAを接触させ、チップと患者のRNAとの反応を見ることで、構成パターンを解析する。

丹野社長によると、全国でこの検査を受けた人はこの1年間で約400人だという。単純平均すると、1機関で10人である。患者の負担が少なく、これだけ高い精度を誇る画期的な検査としては、やや少ない。その理由は

検査費用にあった。次回回は「マイクロアレイ血液検査」の普及の課題について説明する。



DNAチップ④

第40部
検査を
知ろう

Iは、体に放射線や磁気をあて、画像でがんを見つけてのに対し、マイクロアレイ血液検査は、がんそのも

遺伝物質の構成を解析

がん特有のパターン

のではなく、がんに対する体の免疫反応を調べることにある。

体の免疫機能はどんなに小さな異常も見逃さない。しかも、マイクロアレイ血液検査は免疫作用を遺伝子レベルでとらえるので、いやや心なしに精度が上がるわけである。

具体的に、検査で調べるのは「RNA（リボ核酸）」という遺伝物質である。体内に異物が侵入したり、発生したりすると、血球の中に

Aが存在しており、体の状態に応じてその構成が変化する。そこで、金子教授らは、がん患者と非患者のRNAを比較し、がん患者特有のRNAの構成パターンを解明した。

液から採りだしたRNAを接触させ、チップと患者のRNAとの反応を見ることで、構成パターンを解析する。丹野社長はがんを火事に、RNAを消防活動に例える。「火事その

「丈夫が いいね」第1〜38部発売中。お問い合わせは北國新聞社出版局 076(260)35867

◇「丈夫が いいね」は毎週水、金曜日に掲載します。